

# A Study on the Colors Used in "A Midsummer Night's Dream"

著者名(日)	川崎 正美
雑誌名	東京都立産業技術高等専門学校研究紀要
巻	3
ページ	49-51
発行年	2009-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1282/00000068/">http://id.nii.ac.jp/1282/00000068/</a>

# A Study on the Colors Used in “A Midsummer Night’s Dream”

川崎 正美<sup>1)</sup>

Masami KAWASAKI

Last year, I researched the color words used in “A Midsummer Night’s Dream”. In Shakespearean days, there was almost no lighting equipments. So Shakespeare needed to use words very carefully to arouse the imagination of the audience. In that paper I analyzed the frequency of the color words in “A Midsummer Night’s Dream”. This time, I sent out questionnaires to 40 of my students in my school and asked them how hot or cool they felt when they saw or heard a variety of color words and tried to explain the temperature of “A Midsummer Night’s Dream”.

Keywords: “A Midsummer Night’s Dream”, color words, frequency

## 1. はじめに

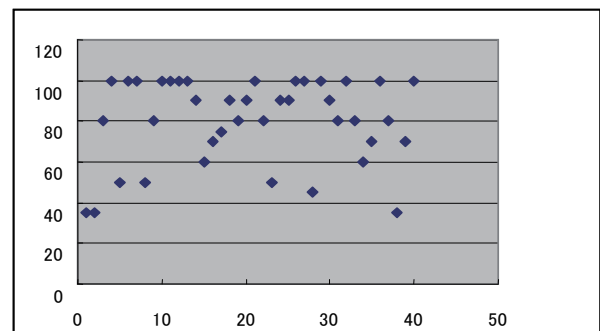
昨年度の論文では“A Midsummer Night’s Dream”中にどのような色彩がどの程度の頻度で使用されているかについて調査した。シェイクスピア作品において使用されている色彩に関する単語を調査し、それがもたらす色彩温度で作品の性格を検証しようとしたものである。赤い色を見て暖かく感じたり、青い色を見て涼しく感じたりするのは、普段よくあることである。温かさを感じさせる色を暖色といい、これは興奮色とも呼ばれている。また、物を大きく感じさせる膨張色でもある。赤が鮮やかなほど熱さを感じ、明るい橙や黄色も暖かさを感じさせる。逆に寒さを感じさせる色、冷たい色を寒色といい、沈静色とも呼ばれている。緑系や紫系の青は、水や海底の涼しさを連想させる。人は色によって寒暖を感じるが、一体何度くらいに感じているのだろうか。本研究においては筆者の所属している東京都立産業技術高等専門学校の40人の学生たちに協力を依頼してアンケート調査を実施し、色を何度くらいに感じているかについて統計をとった。そのデータを基に“A

Midsummer Night’s Dream”について改めて検討を加えることとした。今回のアンケート調査においては赤、オレンジ、黄、緑、紫、青、白、黒、茶、ピンクの各色をそれぞれが1℃から100℃の範囲でどの程度の温度として感じているかについて回答を求めた。

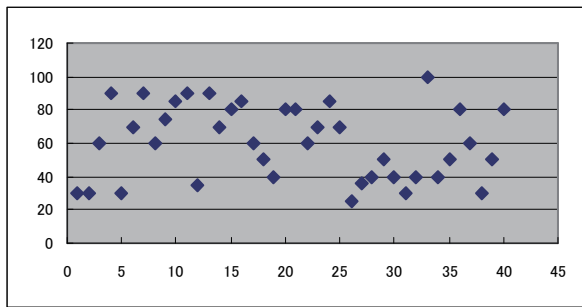
## 2. 色温度調査

以下の表は色ごとの調査結果を散布図で表したものである。縦軸に回答した温度を、横軸に回答者1番から40番までを記した。一つずつ内容を見てみよう。

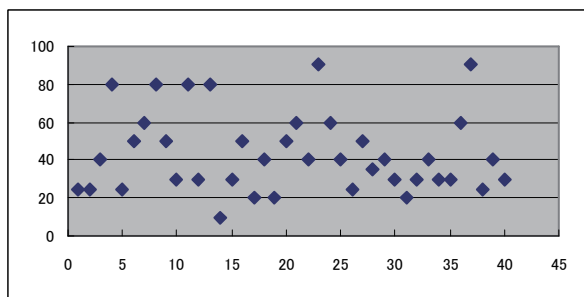
・赤は多くが100℃と答えており、低い温度でもほとんどが40℃以上であり、平均は80.1℃である。



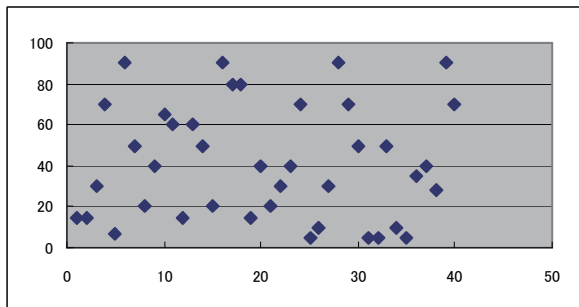
・オレンジは 20℃から 100℃まで幅広く分布しており、平均は 60.4℃である。



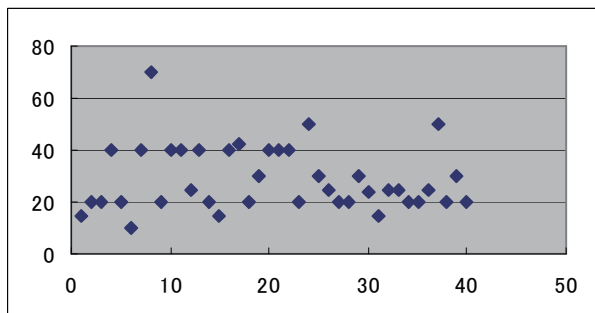
・黄も 20℃から 100℃近くまで幅広く分布しているが、平均は 43.5℃である。



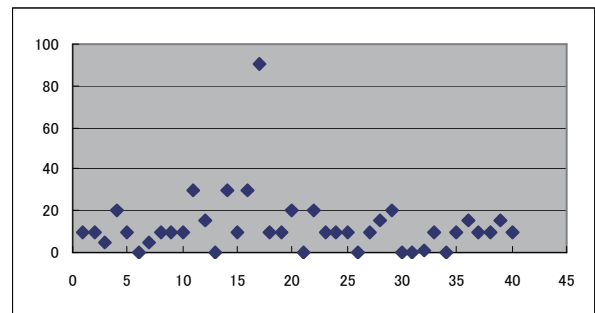
・紫の分布はさらに広範囲に広がる。0℃近くから 100℃近くまで広い範囲を網羅している、この色が神秘の色とされる理由の一つと言ってもよいのではないだろうか。ちなみに平均は 41.6℃と比較的高い数値を示している。



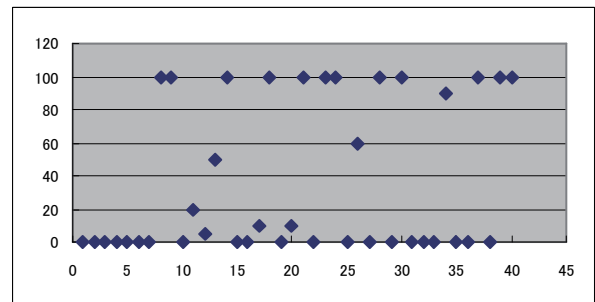
・緑は一部を除いて 10℃から 40℃の範囲に分布しており、平均は 28.9℃と比較的低い温度として認識されていることが判る。



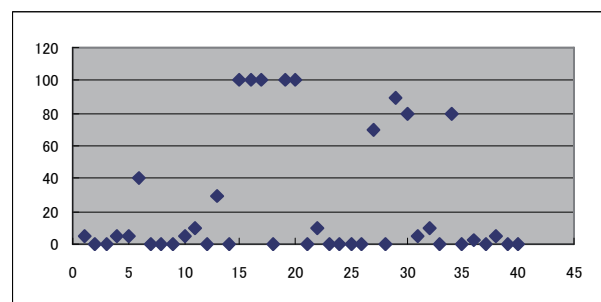
・青は 1 名をのぞいて全てが 30℃以下に収まっており、平均は 12.8℃と緑よりもさらに低い温度として認識されていることが判る。



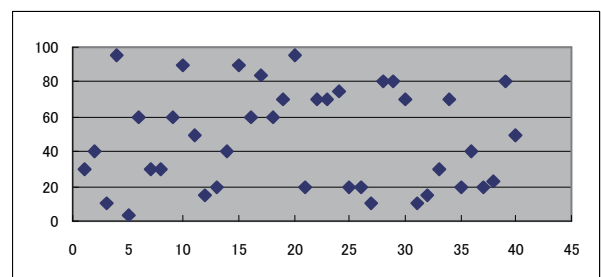
・白は難しい色である。ほとんどが 0℃か 100℃両極端として認識されており、温度と云うよりは黒との比較の関係で、むしろ正邪、善悪などの感情的な部分に働きかけてくる言葉なのかもしれない。極端な分布に対して平均をとる意味はあまりないと思われるが、ちなみに平均は 36.1℃である。



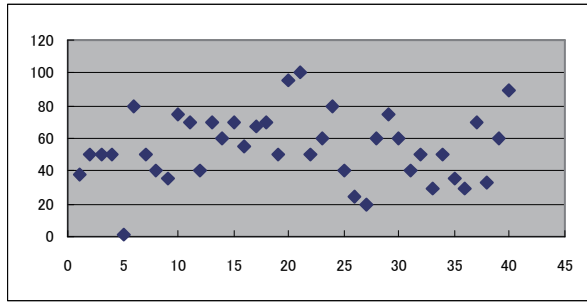
・黒も両極端に分かれた。これも白と同様むしろ温度としては感じにくい色なのかもしれない。しかし白と比べて多くは低い温度として認識しており、平均は 23.8℃である。



・茶も紫と同様広範囲に広がっているが、紫よりも若干と階温度として認識されているようであり、平均は 47.6℃である。



・ピンクは平均が 54.4℃であり、これは赤、オレンジに次ぐ高い値であるが、色調から云って順当な認識のされ方をしていと考えてよいだろう。



### 3. “A Midsummer Night’s Dream”の場合

“A Midsummer Night’s Dream”で使われている色彩に関する語の頻度は赤が3回、オレンジが2回、以下黄4、緑9、紫4、青5、白4、黒5、茶0、ピンク4である。前章で紹介した平均温度にそれぞれの頻度数を乗じて、頻度数で割ると、この作品全体の温度が推し量れるのではないだろうか。ただし前に述べた理由により、白と黒は加えないこととした。計算式は次のようになる。

$$\begin{aligned} & ((80.1*3)+(60.4*2)+(43.3*4)+(28.9*9)+(41.6*4) \\ & + (12.8*5)+(54.4*4)) / 31 \end{aligned}$$

従って、40.1度ということになる。

この作品は色を表す語数が非常に多いことでも知られている。例えば、同じ喜劇でも“*As You Like It*”では5色 10回に止まっており、華やかな雰囲気を持っている“*Twelfth Night*”でも6色 21回に過ぎない。“A Midsummer Night’s Dream”は色彩語の種類においても、頻度においても、作品の温度においても、ほかの作品と比べて突出した存在であるといえるであろう。作品のテーマ（3組のカップルの婚礼）とも相俟って、明るく楽しい作品に仕上がっている。

### 4. 終わりに

“A Midsummer Night’s Dream”は、そのタイトルからしてカラッとした爽やかさや自然の豊かさを感じさせる（英国の夏は日本では想像できないくらい過ごしやすい）が、前章の結論がどのようなものであったか、ほかの作品と比較して検証する必要がある。今後はほかの作品についても同様の調査を行っていかなければならないと考えている。